

目的 今日の子乳児の葉酸栄養の現状を把握することと目的として、さきに乳汁中葉酸量を測定したところ、3ヶ月令乳児の葉酸摂取量は約 $70 \mu\text{g/day}$ となり、健康な授乳婦による母乳栄養のばあい、乳児の葉酸摂取は一応充足されていることが明らかになった。そこで今回は、離乳期乳児の葉酸栄養状態を検査するため、数種調製粉乳ならびに近年利用度の増加している市販離乳食品中の葉酸量を定量し、さらに自家調製離乳食も分析して検討した。

方法 葉酸定量は *S. casei* 7469 を検定菌とする微生物法により、葉酸抽出は0.5% フスコルビン酸を含み、酸緩衝液を用い、Protease処理ののち常法に従って conjugase 処理を行い検液を調製した。

結果 ①調製粉乳中葉酸はすべて遊離型葉酸であり、製品中葉酸量はいずれも25~58%表示量を上廻っていた。②出生後1ヶ月の粉乳中葉酸量は若干減少したが差したる変動ではない。③市販離乳食品中の総葉酸量は、穀粉(フレーク状)が $385.0 \sim 1405.8 \mu\text{g/g}$ と高値を示したが、野菜、果実(うらご(状))は $25.0 \sim 100.0 \mu\text{g/g}$ の範囲内であった。④自家調製パンが印中の総葉酸量は $300 \mu\text{g/g}$ 前後であったが、市販離乳食品ともとに調製された離乳食中葉酸量は、種類によって差異がみられた。⑤以上のことから、離乳期乳児(5~7ヶ月)の葉酸摂取は母乳栄養、人工栄養のいずれにおいても離乳食からの葉酸供給はわずかであり、大部分が乳汁によって充足されていることが窺われた。